11/19

13:30~15:15

第3回カルチャー講座

写真で巡る懐かしの伊勢

昔を知れば、未来が見える! ディープな伊勢の魅力を学ぼう!

毎月開催される伊勢の人気カルチャー講座全6回シリーズの第3回目!今回も伊勢の歴史を知り尽くした講師が、昔の写真を通して、隠れた伊勢の魅力を楽しく解説!

☎0596-22-1112

伊勢市一之木1-2-3 アズマビル2F(ギャラリ つきよみ) ※1F/Capriccio

営 10:00~16:00

休土日祝

WEB Instagram ID [capriccio.ise]



写真で巡る懐かしの伊勢~古市とその周辺編~



コーヒー・お菓子付 講師 伊勢郷土史家 秋田耕司 1人500円(資料代含む) 場所 ギャラリ つきよみ

■ 080-1581-3985へ ショートメールにて予約受付

予約時、①氏名②電話番号③参加人数上記①~③をお送りください。

昔を知れば、未来が見える!

カルチャー講座

写真で巡る懐かしの伊勢

第1回 伊勢市駅周辺

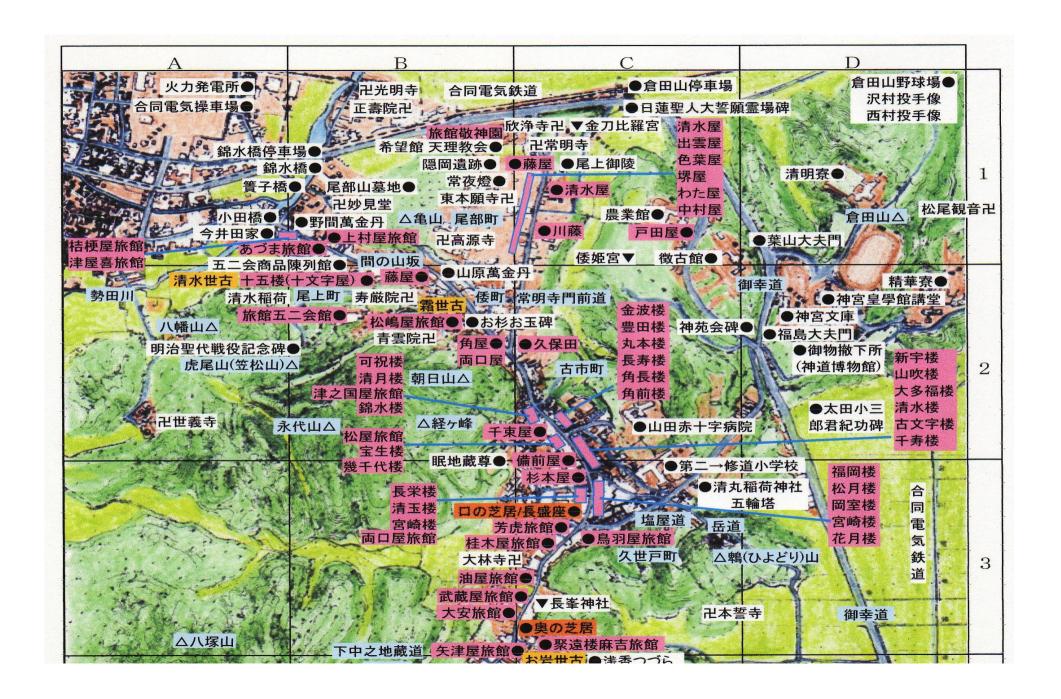
第2回 月 夜 見 宮 から 筋 向 橋

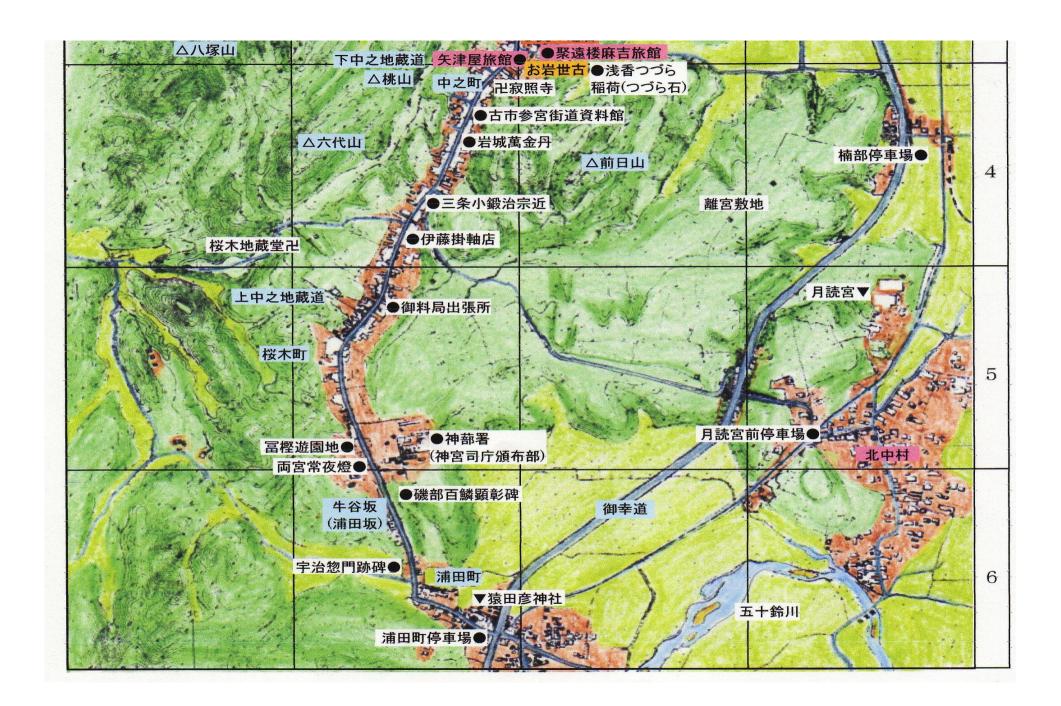
第3回 古市周辺

第4回河崎周辺

第5回筋 向橋から西側

第6回 宇治 周辺

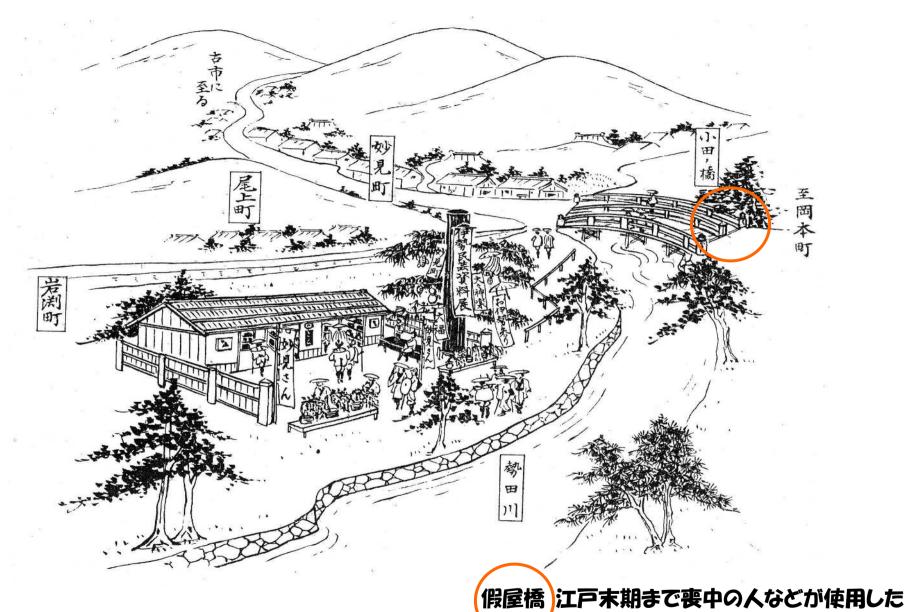




小田橋



「大神宮諸雑事記」1050 永承5年に「小田の橋」が記載 御贄おにえ川→勢田川 1641寛永18年 春日局が青銅の擬宝珠を寄進した



伊勢民芸資料展は何を展示していたのでしょうね?



昭和8年頃

簀 子 橋



尾上町(旧 妙見町)



野間万金丹支店

明治期?

今井田家(本居宣長養子家)

伊勢には3種類の萬金丹があった

- 1. 朝熊山系(本尊 虚空蔵の霊夢よい伝授) (1) 野間萬金丹 (2) 山原萬金丹
- 2. 秋田教方系(秋田実季が伝授) 中倉萬金丹→岩城萬金丹
- 3. 小西系(大阪堺より伝授) 小西萬金丹



1688~1703元禄年間 野間萬金丹尾上町支店を出店 そばに山原萬金丹もあった

朝熊岳本店



伊勢湾台風の時、崩壊

岩渕町岡崎宮妙見堂

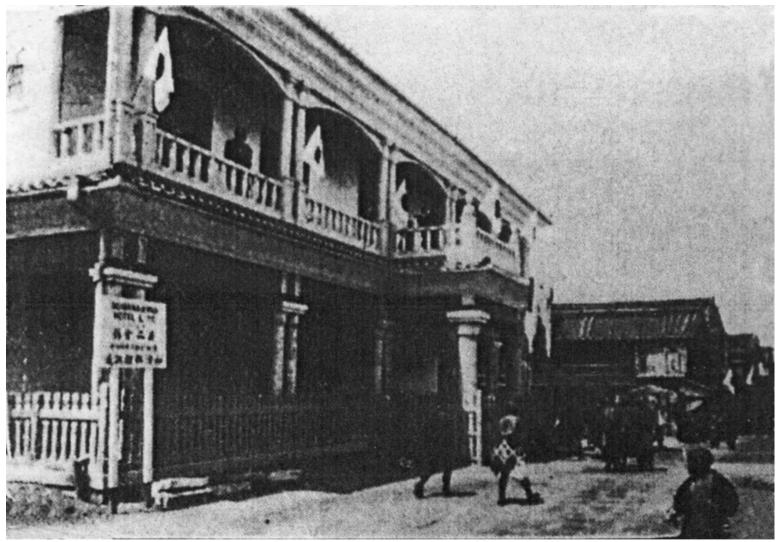


10世紀頃の度会一族の聖地跡 (現在は個人所有)

13世紀中頃、伊勢神宮に祈願した日蓮の前に妙見大菩薩が現れたのを多くの人が見たと言うので妙見堂を建立、その地を「妙見町」と言ったが、仏町名廃止により「尾上町」となる



尾上町 五二会陳列所



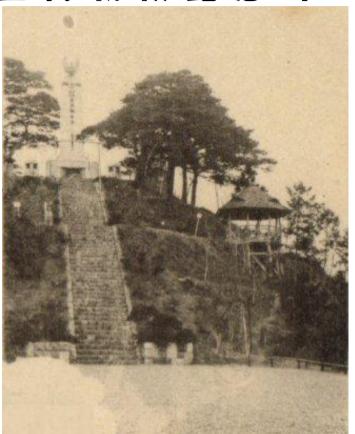
古市街道 虎尾山 入口にあった

五二とは 織物・陶磁器・金属器・製紙器・雑貨類+敷物類・彫刻 明治32年品評会開催

虎尾山 明治聖代戦役記念碑昭和3年竣工東郷平八郎揮毫



昭和10年頃か? 上部は昭和20年に破却





現在、橋本 紡の小説「半分の月がのぼる空」の聖地となっている



附近に面積2700余坪の遊園地もあった

尾上町 隠岡山いんこうざん 寿 巌 院 入 門 寺



寿 巌 院 1615年創建 1706年現在地に移築





伊勢を代表する 江戸末期の俳人 1765-1851

古 市 街 道 間の山 (尾部坂とも)



昭和3年に勾配の切り下げと拡張工事を完了

お杉お玉 尾部坂 お杉お玉 (牛谷坂 お鶴お市)



固有名詞ではなく女性大道芸人の通称 三味線や胡弓にのせて唄い、三味線の撥(ばち)で受けたい身を動かして避け、銭を乞うた

吹上町→尾上町→神社 東照山 清 雲 院(お夏寺)





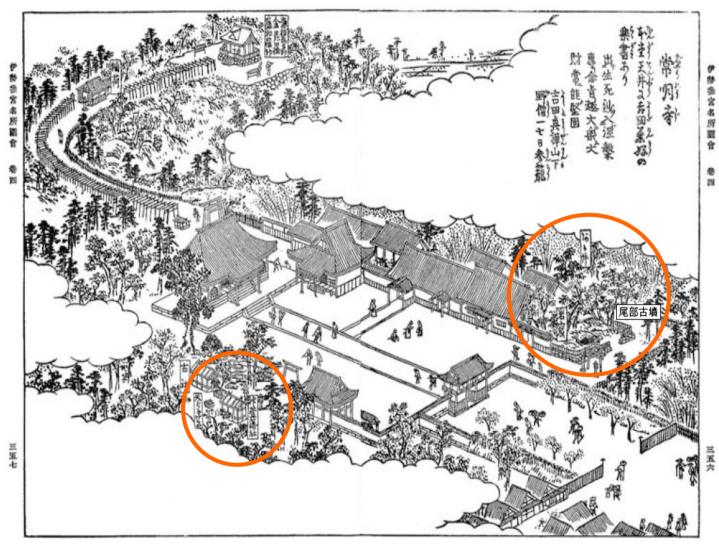
(初代は花房志摩守とされているが?)初代山田奉行長野内藏允くらのじょう友長の娘、徳川家康の愛妾 於奈津(お夏)の方の心願によい1630年に吹上町(伊勢市駅前)に開基本来は、菩提寺である津の西来せいらい寺に開基するはずだった 1670年の山田の大火でこの地に移転 現在は神社にある

倭町 (旧 常明寺門前町町)隠 岡 縄 文 遺 跡



隠岡遺跡 3世紀弥生時代≒伊勢神宮成立?→度会氏の領分だった

倭町 旧常明寺門前町 高日山 常明寺





天台宗 常明寺は平安期末にはすでにあった 古来、 度会神主家とは関係が深く、 毎年正月8日外宮神官が参向し、祭りを行った

倭町金刀比羅神社と神落萱 かみおちが神社





悸 佐 6 6 6 6 6





天照大神を伊勢に導いた「倭姫命」

常明寺配置图

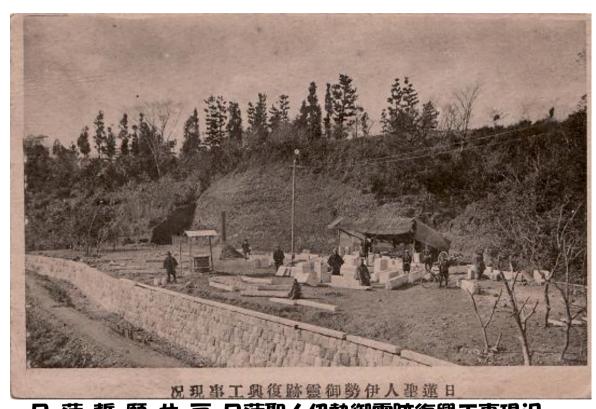


常明寺門前町(現、倭町) 1767 明和4頃、 妓楼繁栄し始める 常明寺は明治 2 年頃廃寺

入り口の (鳥居) は江戸時代の初め頃、この付近を刑場として使用しないことを願って建てたのが始まりと伝えられている 明治元年撤去 倭町の尾根と倉田山の間の谷筋が「地獄谷」と呼ばれ、山田領と宇治領の境となっていて、刑場があったとされている



神田久志本町 日 蓮 聖 人 伊 勢 御 霊 跡 常明寺の端に当たる





日 蓮 誓 願 井 戸 日蓮聖人伊勢御霊跡復興工事現況 現 在 13世紀中頃、日蓮上人が神宮へ法華宗開宗を祈願した時に参詣した大誓願霊場の跡

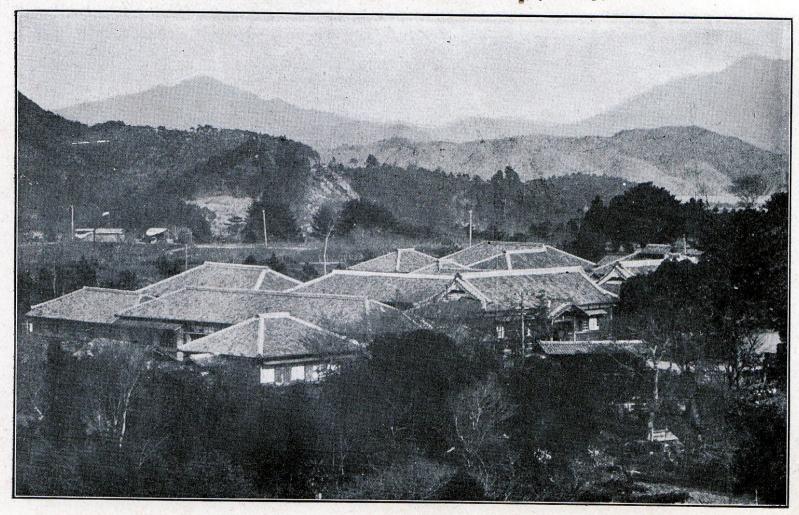
楠部町 現テニスコート 日本赤十字社三重支部山田病院



左手奥に病舎 大正10年頃か? 右手影に院長社宅明治33年町立病院建設 → 明治36年日赤に寄付 → 大正14年御園村高向に移転 玄関は神久「自性軒じしょうけん」に移築

日 赤 全 景 朝日山より写したる病院全景

景全院病ルタシ寫リョ山日朝



八幡山、虎尾山 亀山 倉田山 朝日山 永代山 経ケ峰 鵯ひょどり山 八塚山 六代山 桃山 前日山 など

古市界隈



昭和37年頃



昭和37年頃

楠部町修道 尋常小学校

大林寺 → 明治40年新校舎落成 → 明治44年第二尋常小学校と改称



明治39年度(明治40年) 新校舎第1期 卒 業 式

修道幼年音楽部



明治期後半か?

久世戸町 大五輪 おおごりの 大 五 輪 塔 (三重県最大)





大五輪: 1489 延徳元年に宇治と山田が激しく戦った時の山田方戦死者の合同供養碑だと伝わっていたが、最近の研究では、叡尊が鎌倉時代に中興した楠部町 旧弘正寺のものだとも

久世戸町 二河山 白道院 本誓寺 ほんせいじ (浄土宗)





古市町 歌舞 伎芝居古市三座

芝生の上で演目を見物するから「芝居」口の芝居・奥の芝居が開かれたのは1617元和3年 □の芝居(古市郵便局辺り)→長盛座→新富座 中の芝居(長峯神社辺り) 奥の芝居(麻吉入口)







口の芝居の跡碑

浄瑠璃

義太夫

義太夫:江戸時代前期、大坂の竹本義太夫がはじめた浄瑠璃の一種の節回し 地元の人達で素人歌舞伎・浄瑠璃・義太夫が演じられたのちの備前屋主人は義太夫、息子は花形役者

「伊勢音頭恋寝刃」

1796 寛政8年に古市 「油屋」 で起きた刃傷事件をもとにした有名な歌舞伎狂言



妓楼・旅館の話はあとで

古市町 大 林 寺





左:お紺の墓 真ん中:六地蔵 右:孫福 斎の墓 1830文政13年 江戸4代目阪東彦三郎によって大林寺に建碑された 果たしてお紺は喜んでいるのでしょうか?

古市町 長 峯 神 社 俗称「うずめさん」



伊勢音頭の遊女や古市歌舞伎の役者の祖神ぉゃがみとして芸能の神様 【あめのうずめのみこと】が祀られている 演劇人が参拝することも多い

中之町 栄松山 寂 照 寺



徳川家康の孫で秀忠の娘で豊臣秀頼の側室 千姫の菩提を弔うため、 1677 延宝5年に知恩院 寂照知鑑上人によって創建 1774 安永三年 僧 月僊 (月仙・月僲とも) が来て、描いた絵を売り、寺運を回復した(こじき月僊)

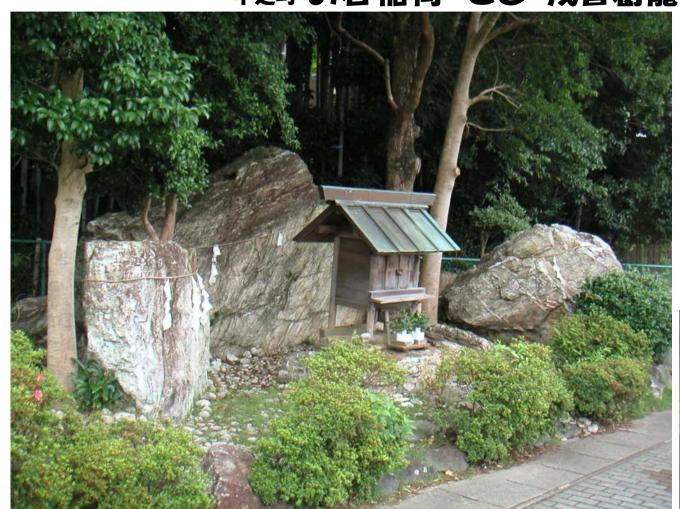


月僊上人像



瓦に「葵の御紋」が

中之町 お岩稲荷 こと 浅香葛籠っづら石





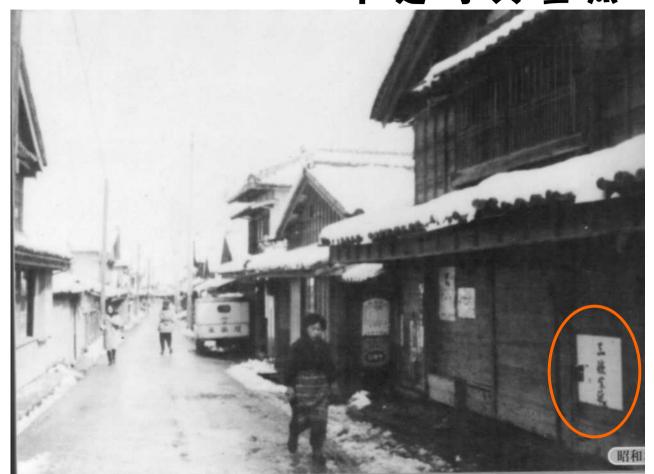
この場所の近くの谷底にあった御神体 岩肌がつづらに似ていた

中之町 伊勢古市参宮街道資料館



伊勢でたった1つの郷土資料館 企画展で頑張っています ご来場の上、 応援して下さい

中之町交差点





昭和30年ころ

三條宗近の張い紙

昭和20年の大空襲を免れたが平成5年の伊勢自動車道開通により家並みが分断された

中之町 秋田教方中倉系 岩 城 萬 金 丹

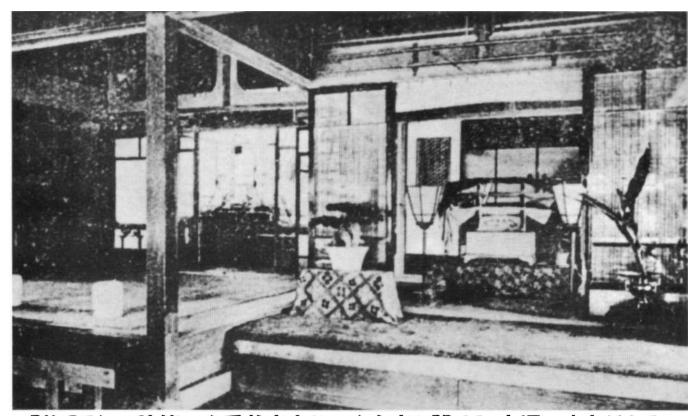


伊勢には3種類の萬金丹があった

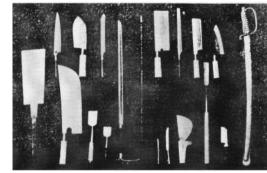
- 1. 朝熊山系(本尊 虚空蔵の霊夢よい伝授) (1) 野間萬金丹 (2) 山原萬金丹
- 2. 秋田教方系(秋田実季が伝授) 中倉萬金丹→岩城萬金丹
- 3. 小西系(大阪堺より伝授) 小西萬金丹

中之町三条小鍛冶宗近本店

奈良の菊一文字系 と 京都の三条小鍛冶系



明治23年の建築 左手前車寄せで人力車を降りる 中坪に噴水がある 明治43年御幸道路完成で古市街道は地の利を失う 桑切包丁 仕込み杖 サーベル



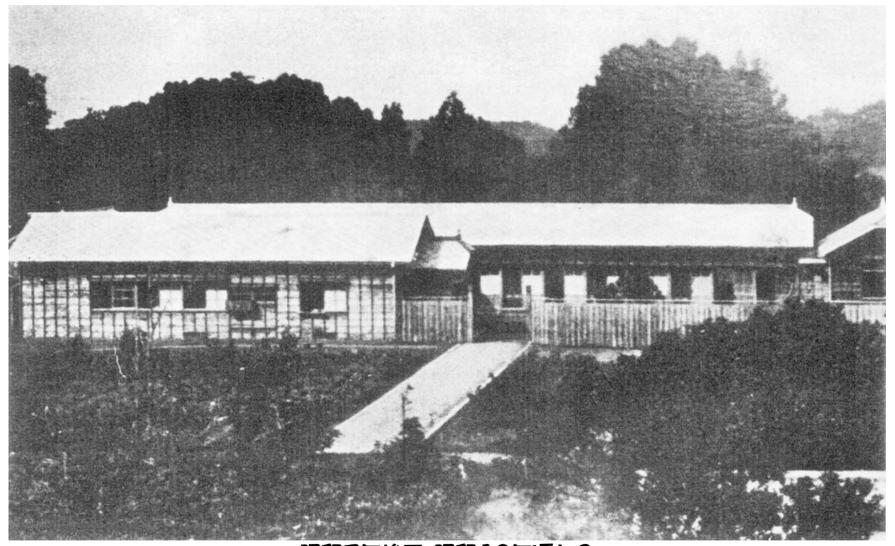
当店から桜木町の伊藤掛け軸店に立ち寄るのが好事家のコース

桜木町 桜 木 地 蔵



1712 正徳2年山田奉行を勤めた大岡越前守忠相も訪れ、 井戸奉行に出世したという伝えから出世地蔵とも呼ばれている

桜木町 神都養老院



昭和7年竣工 昭和10年頃か? 昭和10年当時、60歳以上が7名、70歳以上が3名、80歳以上が1名、計11名を収容

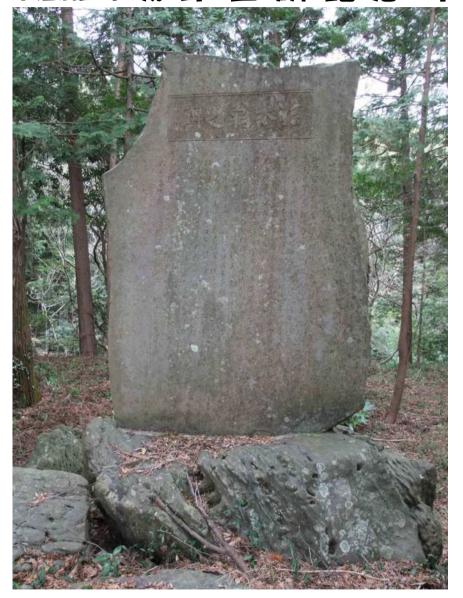
桜木町 両 宮 参 拝 記 念 常 夜 灯 と 牛 谷 坂





牛谷という名はこの付近に牛鬼という怪物がいたという牛鬼伝説の由来による 常夜灯は油屋が管理 妓楼家業を廃し私財を捻出して、1805文化2年千束屋里登いとが牛谷坂を真っ直ぐに改修したが、 その後も改修は続けられた

宇治浦田町 磯 部 百 鱗 記 念 碑 (花水翁 在家出身)





両 宮 参 拝 碑 (宇宙の秘密碑)



両宮参拝碑

找(探す)教徒者每年必誓

為両宮参拝矣(である)

為自得於宇宙之秘密

明治四十年建立之

活教主 奈良市 吉村長慶

吉村長慶は、幕末の奈良まちに生まれ、株で大儲けして、宇宙庵と称した奇豪。昭和17年に80歳で亡くなるまで、奈良県内はもちろん京都、大阪、高野山にまで二・三百の石造物を遺している。

宇治浦田町 小坡美術館 伊藤小坡(猿田彦神社の娘):四条丸山派の日本画家





行 秋

宇治浦田町総門橋(黒門橋)

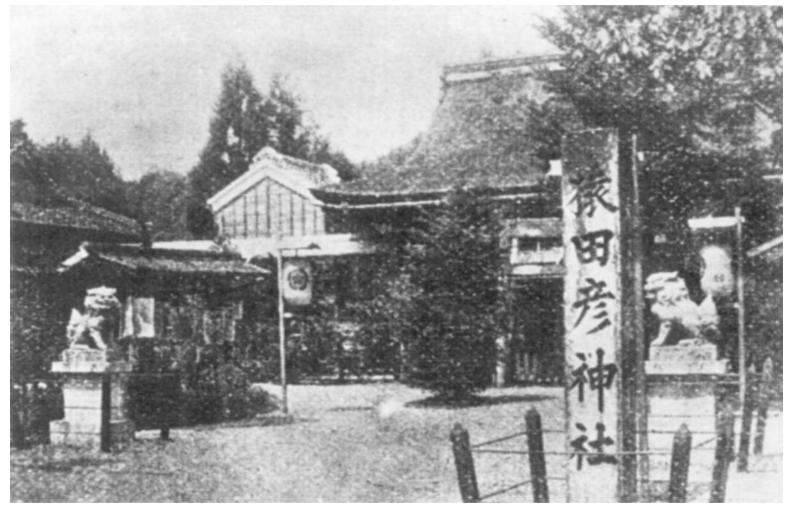




昭和8年頃

総門: 明治維新頃まであり、総門と番所を設けて罪人等の通行を取り締まっていたという。

宇治浦田町 猿田 彦神 社



猿田彦神は天孫降臨の先導を終えた後、五十鈴川上に鎮まった。 その子孫の大田命は天照大神をを伊勢にいざない、祀る地として倭姫命に五十鈴川上の地を献上 その子孫の宇治土公うじのつちぎみが屋敷神として猿田彦を祀っていたのを猿田彦神社とした

神 苑 会 の 業 績 ^{外宮前} 農 業 館・神苑会三重事務所



神田久志本町 倉田山公園 農業館



片山東熊設計 明治38年倉田山に移築·増設 平成10年 国の登録有形文化財指定

二見賓日館に仮徴古館



圖ノ館日賓浦見二属所會苑神●

明治24年創設 日本最古の産業博物館仮 徴 古 館

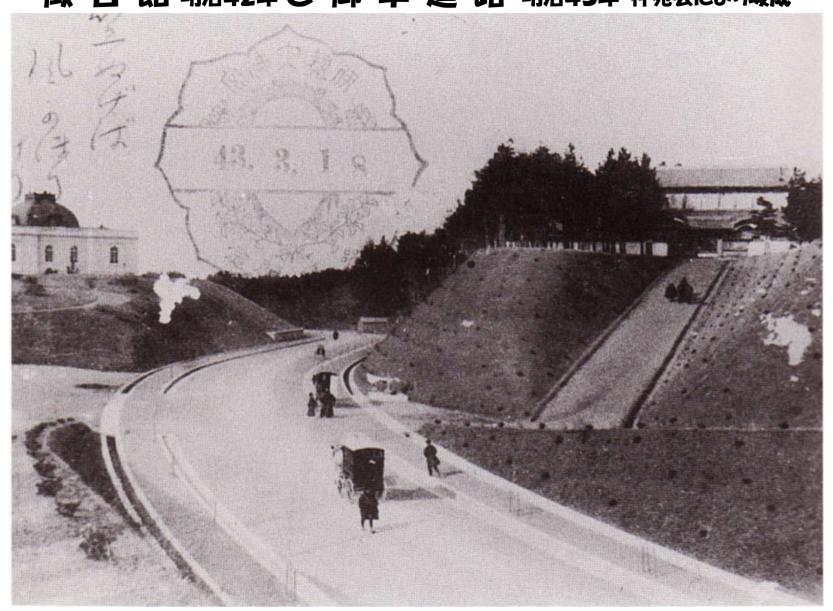


明治26年 片山東熊設計 建築場所は現在の徴古館左手

神都倉田山新開 御成道 及 徴古館 之 大工事



徴 古 館 明治42年と 御 幸 道 路 明治43年 神苑会により峻成



完成した 御成路 及 徴古館 (伊勢名所)





将来の車社会に対応するために舗装道路に仕上げられた

徴古館



明治42年竣工 片山東熊設計

徴古館・撤下御物陳列所

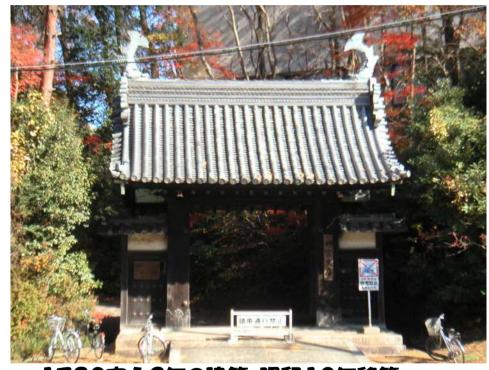


撤下御物陳列所



神苑会により 明治36年新築 翌37年 神宮司庁に献納 同45年閉鎖 → 大正14年「神宮文庫」が建設

元福島御塩焼大夫薬医門と神宮文庫





1780安永9年の建築 昭和10年移築

神宮文庫

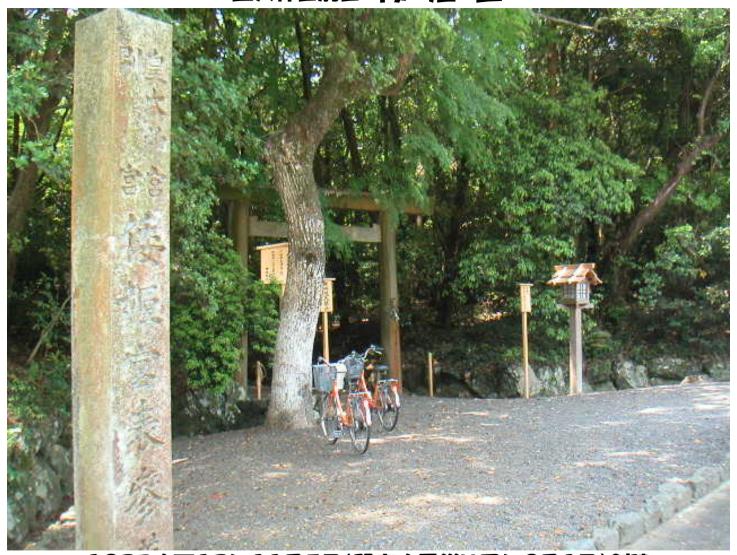
1906 明治 39 年に神宮文庫が竣工 翌~43年 外宮内宮両宮・旧林崎文庫・旧豊宮崎文庫の蔵書収集

神苑会碑·太田小三郎紀功碑



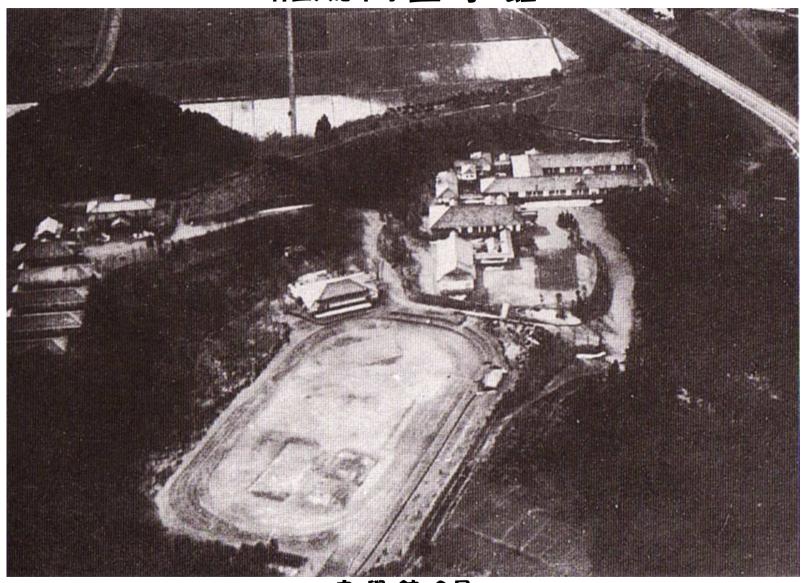


皇大神宮別宮 倭 姫 宮



1923大正12年11月5日(関東大震災は同年9月1日)創建内宮・外宮の別宮で創建時期が分かっているのは「倭姫宮」のみ

神田久志本町 皇 學 館



皇 學 館 全景

皇学館明治15年神宮教院本教館を母体に「林崎文庫」内に開校



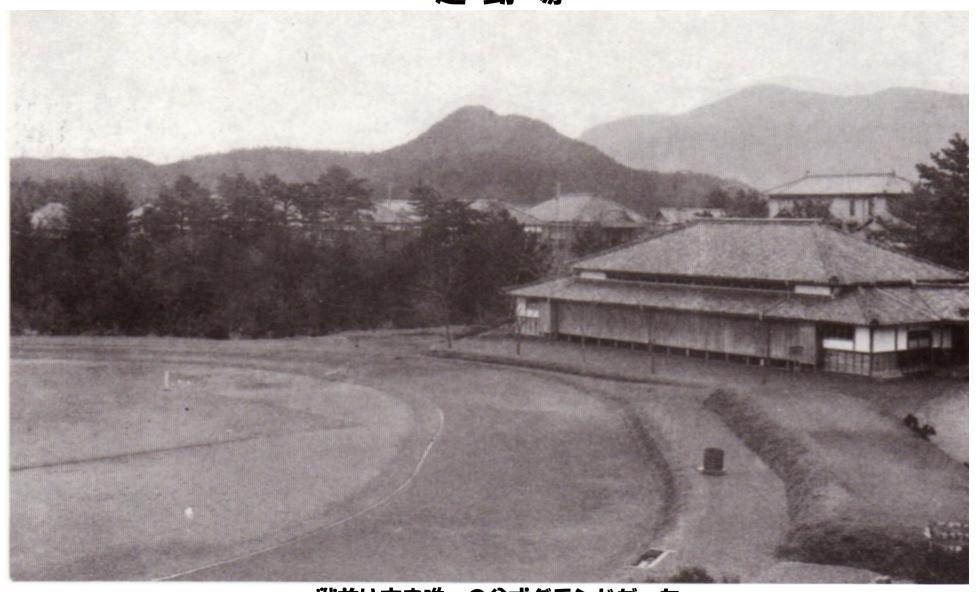
神宮皇學館 校舎→祭式道場 明治20年宇治浦田町、大正7年倉田山に移転。昭和21年廃学 昭和31年再興

大講堂



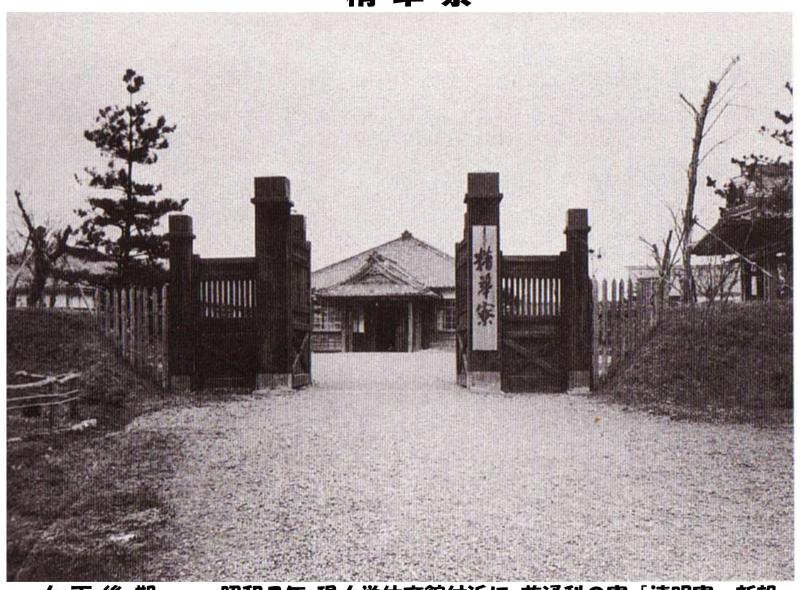
昭和3年新築 昭和41年消失

運動場



戦前は市内唯一の公式グランドだった

精華寮



大 正 後 期 昭和3年 現大学体育館付近に 普通科の寮「清明寮」新設

神田久志本町 倉田山中学校

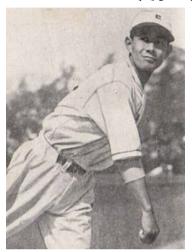


昭和 25 年頃

昭和22年 宇治山田市立第一中学校(進修・修道地区)・第二中学校(明倫・有緝・宮山地区)が統合して 倉田山中学校 開校 昭和30年 市町村合併により伊勢市立倉田山中学校に改称

楠部町 倉 田 山 公 園 野 球 場 ダイムスタジアム

沢村栄治選手生誕 100 周年記念 1917 大正 6 年 2 月 1 日 - 1944 昭和 19 年 12 月 2 日 ベーブルースを打ち倒した郷土のほごり 読売巨人軍の豪腕投手 背番号 14 番





在いし日の沢村選手 倉田山公園野球場の銅像





伊勢郵便局裏の一与坊墓地にある墓 Gと14



明倫商店街裏にある 生家跡

大世古町出身 1930年代 阪神タイガースで黄金時代を築いた 西村幸生投手像 もある

楠部町 松 尾 停 留 所 伊勢の市電は全国でも珍しい右側通行



明治36年 本町⇔(古市口)⇔二見 同38年 山田駅前⇔本町 同39年 山田駅前⇔(古市口)⇔浦田町明治42年 本町⇔古市口(復路) 大正3年 本町⇔(浦田町 のち猿田彦神社前)⇔内宮前 開通

楠部町松尾観音



712年和銅4年 行基の開創 行基作 十一面観音が本尊

中村町 皇大神宮別宮 月 読 宮 天照が太陽の神、月読が月の神 男の神様 農耕の神

父は伊邪那岐命いざなぎ、姉が天照大御神、弟は素戔鳴尊すさのお



月夜見と月読 なにが違う?

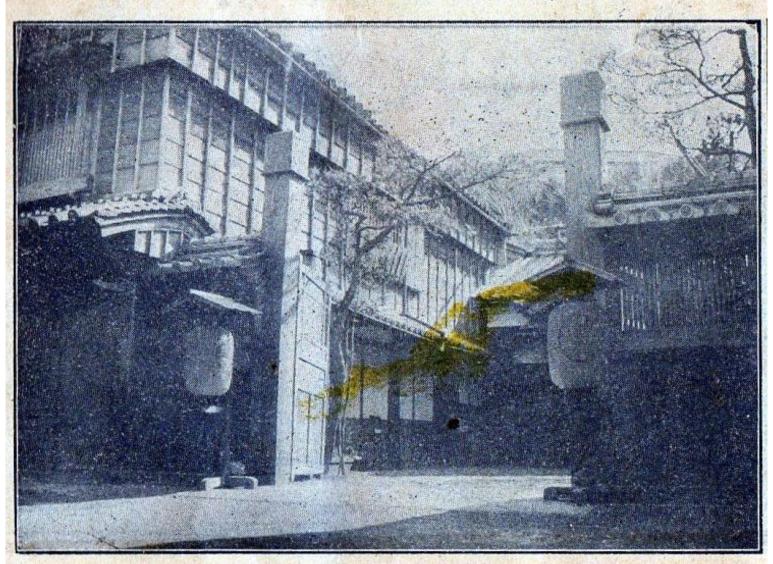
止由気宮儀式帳では「月讀神社」、延喜式神名帳では「月夜見神社」・伊勢大神宮式」では「月夜見社」と記載明治時代に外宮別宮「月夜見宮」、内宮別宮は「月讀宮」と表記するようになった。

ちょっと一休み

お待ちかね! 次は旅館をご紹介します

尾上町(現 ローソン) 十 文 字 屋 こと 勅 使 斎 館 旅館 十 五 楼 → 倭町

(六五 長話電) 樓 五十(館 齋 使 勅) 館 旅



悸町 勅 使 旅 館 十 五 楼

大正10年前後に尾上町から倭町常明寺跡に移転 隆盛を極めたが大正末期に廃業



勅使旅館十五楼正面図

悸 希望館

大正7年に社会教育家後藤静香せいこうが社会運動団体「希望社」を設立、全国の神宮崇敬者が宿泊する施設として「十五楼」の建物を使い、昭和4年「希望社付属神都希望館」開館し、昭和8年に解散



宇治山田市に於ける神都希望館 昭和12年跡地に天理教三重県教務支庁が設立 → 現、天理教三重互助園



望みと愛と信の家(神都 希望館)

昭和4年8月19日開館記念(静香)

闇路を照らす希望社の尖塔



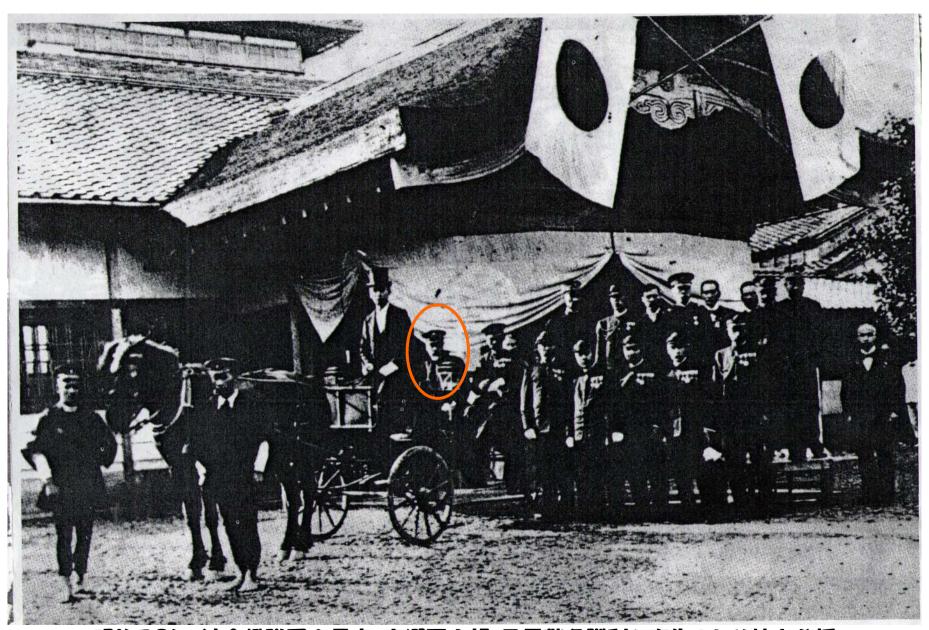
塔尖の社望着すち照を路間

後藤静香氏

尾上町 五二会会館 → 五二会ホテル 初の洋式ホテル



明治32年竣工→42年大日本ホテル支店→大正04年都ホテル支店→ 大正05年明治聖代戦役記念会へ売却



明治38年 連合艦隊司令長官 東郷平八郎 日露戦争勝利を奉告のため神宮参拝



雪の中庭



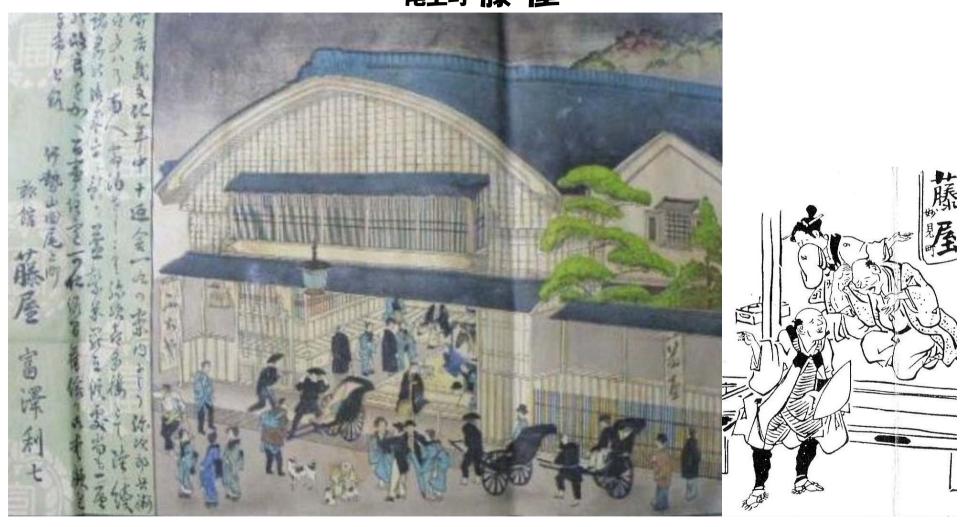
御 座 所 (天皇や貴人の居室)

五二会ホテルの玄関は川端町地蔵院本堂として移築されている



昭和35年解体 同37年地蔵院に移築

尾上町 藤 屋



藤屋に泊まった弥次喜多

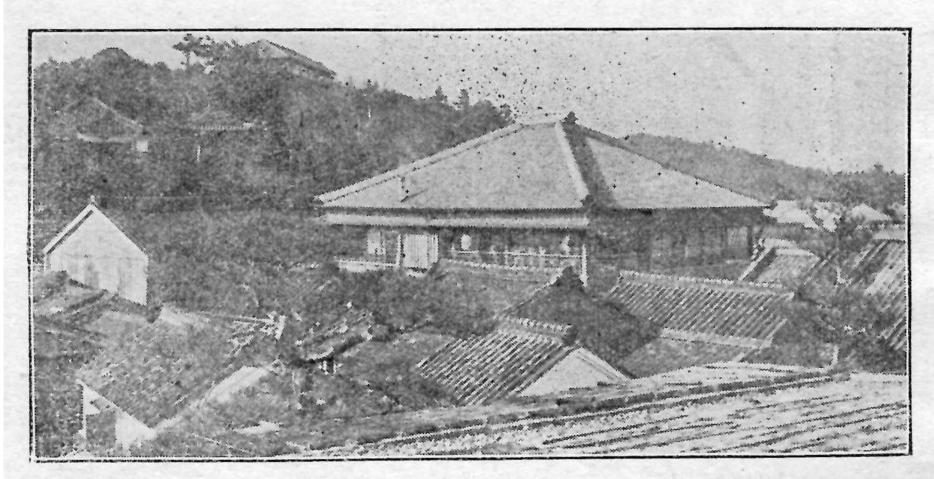
尾上町 参宮ホテル 松 嶋 館 (本家)→二見 (分家)→山田駅前支店



博文館特派員の宿泊せし松島館

博文館は日本最大の東京都の出版社。明治時代には数々の国粋主義的な雑誌を創刊した

館島松しせ泊宿の員派特館交博



灯台視察のため、明治5年末にイギリス外交官 アーネスト・サトウが大隈重信とともに宿泊した

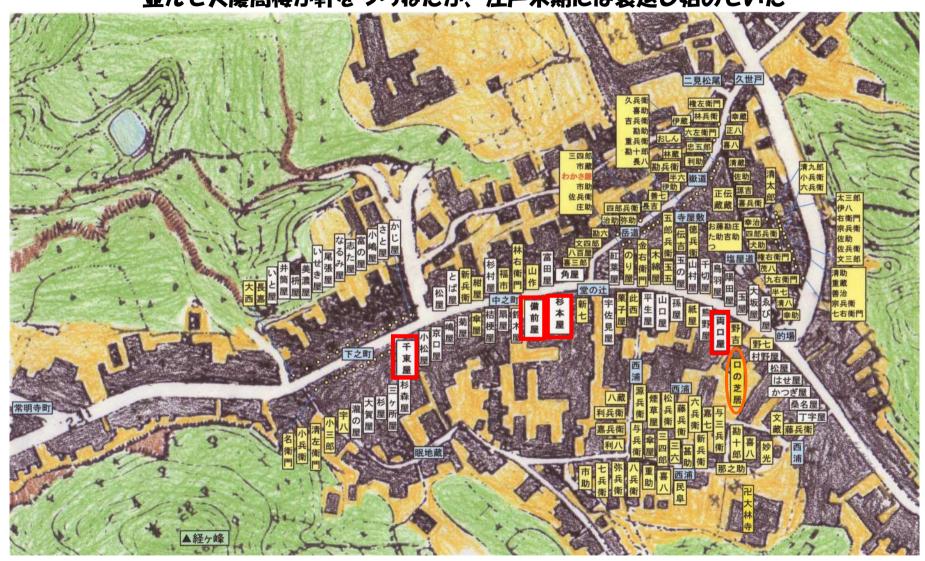
悸 敬神園

日露戦争による戦没者を供養するという名目で「旅館 敬神園」が営業、大正7年頃に廃業。

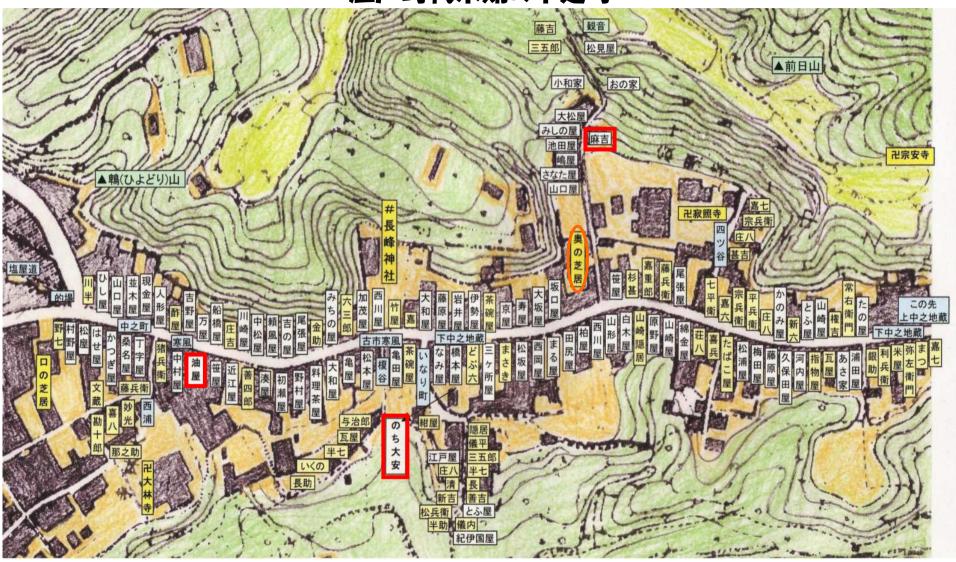


敬 神 園 道 案 内 の 常 夜 灯 → 昭和46年 解体

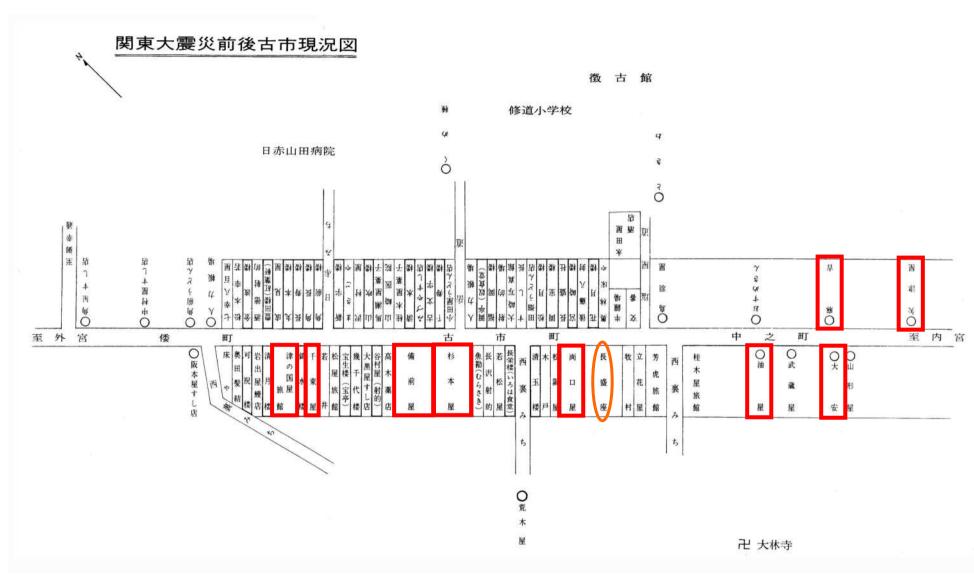
江戸時代末期の古市 遊廓ができたのは江戸時代の初め 寛政6年(1794)の古市大火後は三大妓楼:備前屋、杉本屋、油屋など、三大(江戸吉原・京都島原) 五大(大阪新町・長崎島原)と並んで大厦高楼が軒をつらねたが、江戸末期には衰退し始めていた



江戸時代末期の中之町



下中之地蔵86軒、四ツ谷4軒、御岩12軒、稲荷町17軒、古市寒風34軒、榎谷5軒、西浦33軒、中之町46軒、塩屋町29軒、寺屋敷7軒、岳道40軒、下之町30軒 総数 340軒余



大正12年頃

古市は江戸の吉原・京都の島原にならぶ日本三大遊郭の一つ





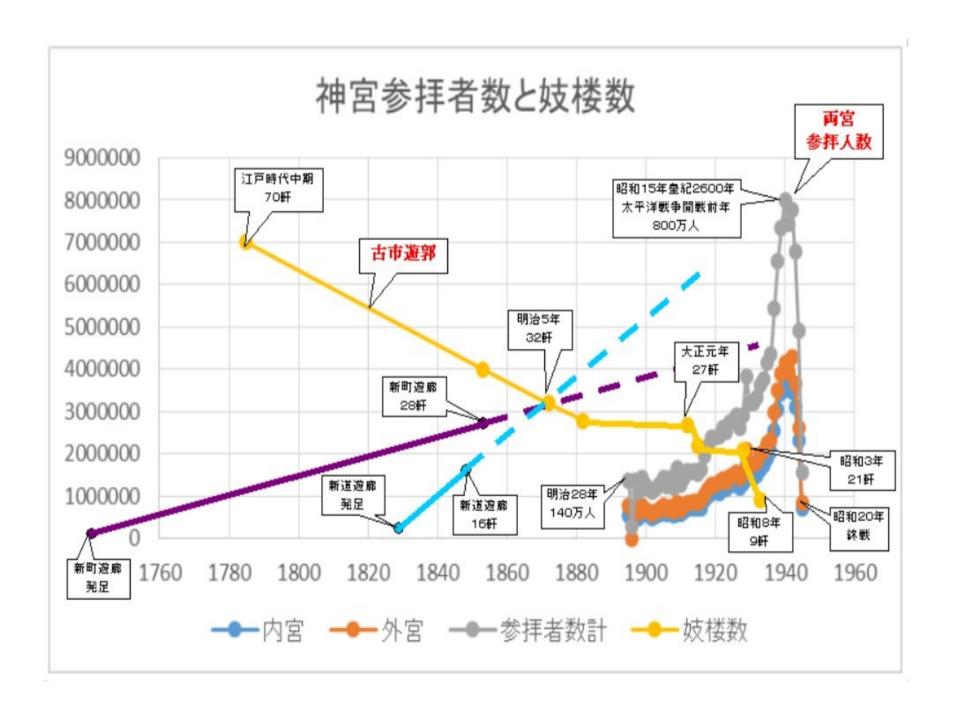






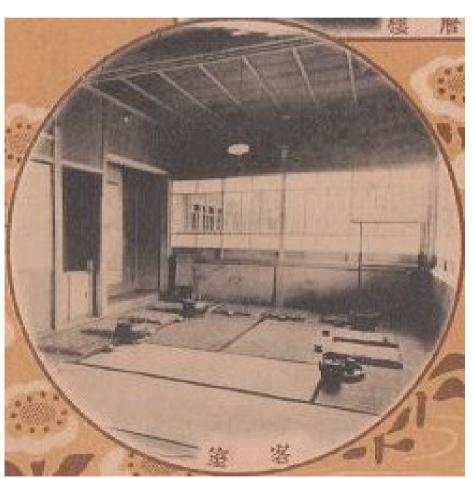


かっての賑わいはなくなっていたが、明治5年当時、640人余りの娼妓がいたという



古市町津乃国屋





客 室

古市町 千 東 屋 → 貸衣装屋

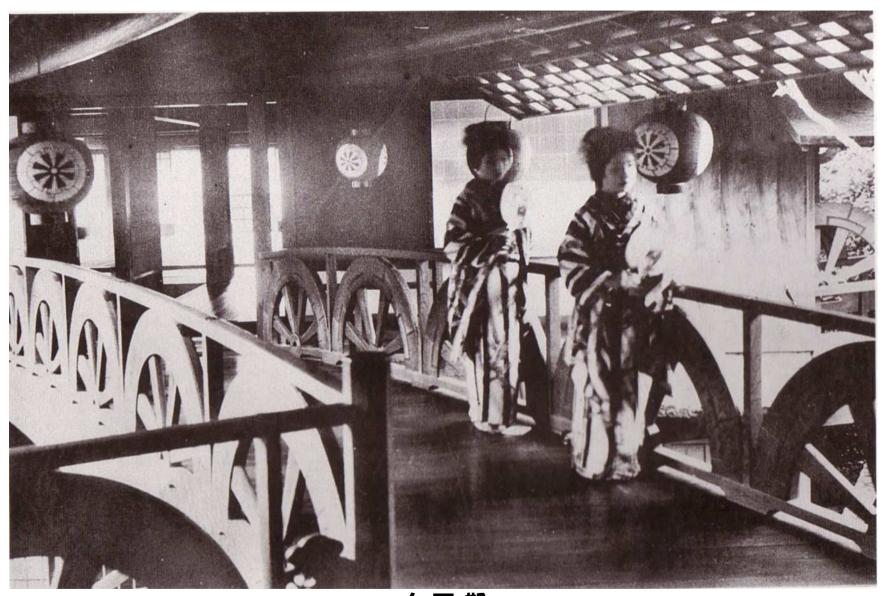


千束屋で遊ぶ弥次喜多「お銚子を早う早うと伊勢の神 古市前のうつや〇年 尾場?在雅亭ひかる」 妓楼家業を廃し私財を捻出して、1805文化2年 千束屋里登いとが牛谷坂を真っ直ぐに改修した

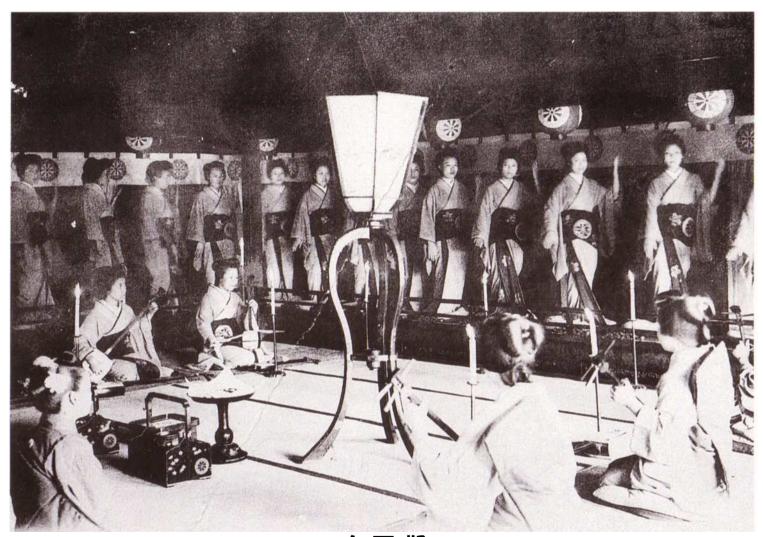
古市町 牛車楼・桜花楼 こと 備前屋 古市4大妓楼(油屋・杉本屋・柏屋)の一つ



太 田 小 三 郎 一大正初期→ 岡 本 種 松 昭和4年 杉本屋の火災により類焼 → すぐ再建され、昭和20年に焼失するまで営業した



大正期
名古屋に出店した時に牛車に乗った賓客を迎えたことから「牛車機」と呼ばれた

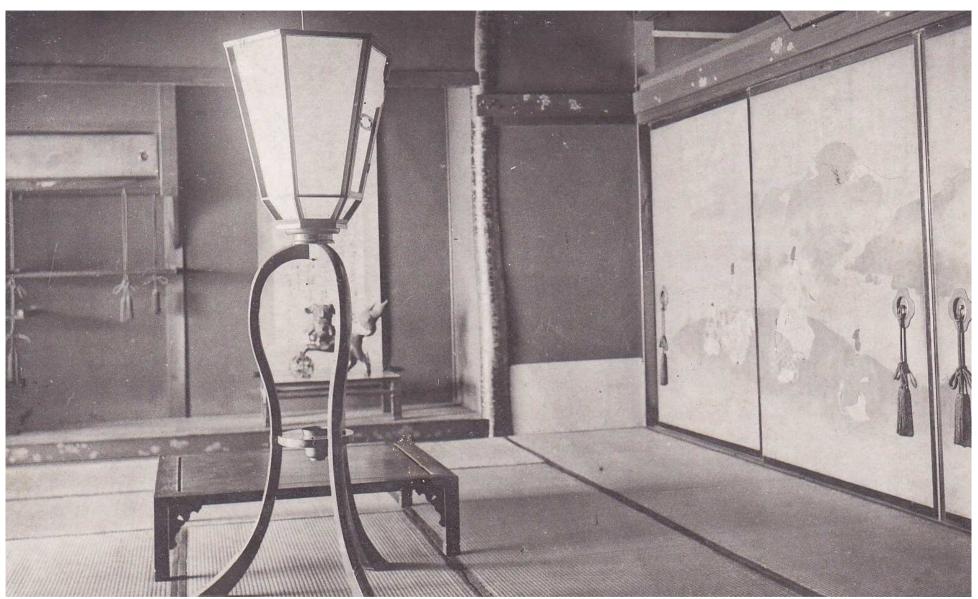


大正期

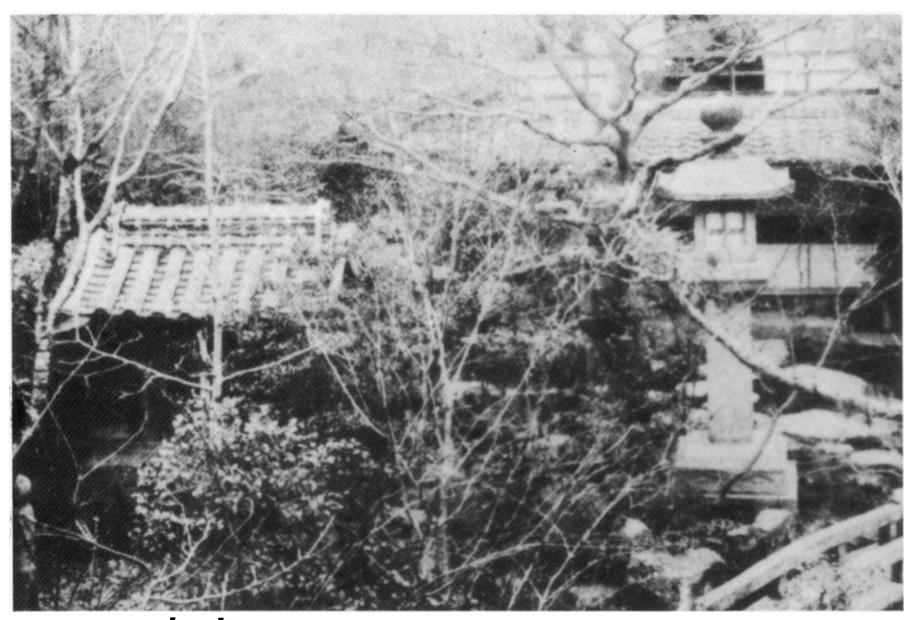
古市において最も早く伊勢音頭の舞台を作り伊勢音頭を用い、1794 寛政6年 せり上げ舞台を始めた。 左右から娼妓が出て中央ですれ違い、左右に消えるのが「備 前 屋 型」 上手から20人躍り出て下手に消えるのが「杉 本 屋 型」



江戸時代の見物科は10人で1両(現在の30万円くらいか) 牛車の紋付き揃いの衣装



客 間



中 庭 弁天様が祀られていた→弁天像は古市資料館にあります

備前屋の弁天様







古市参宮街道資料館 蔵

古市町 菊寿楼 こと 杉本屋



平尾彦十郎 ー(大正初期)→ 森 三六 昭和14年3月の火災により焼失し、すぐ再建され、昭和20年に焼失するまで営業した

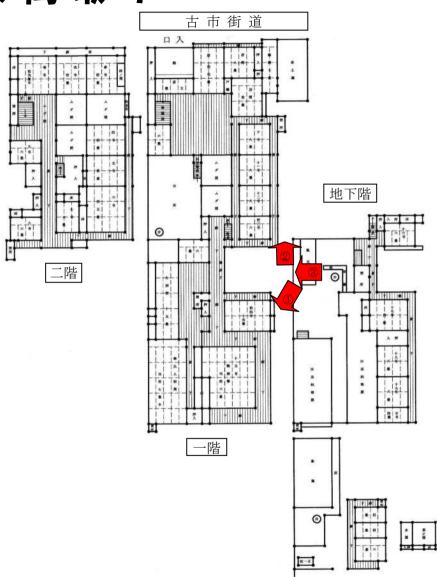


杉本屋の間取り













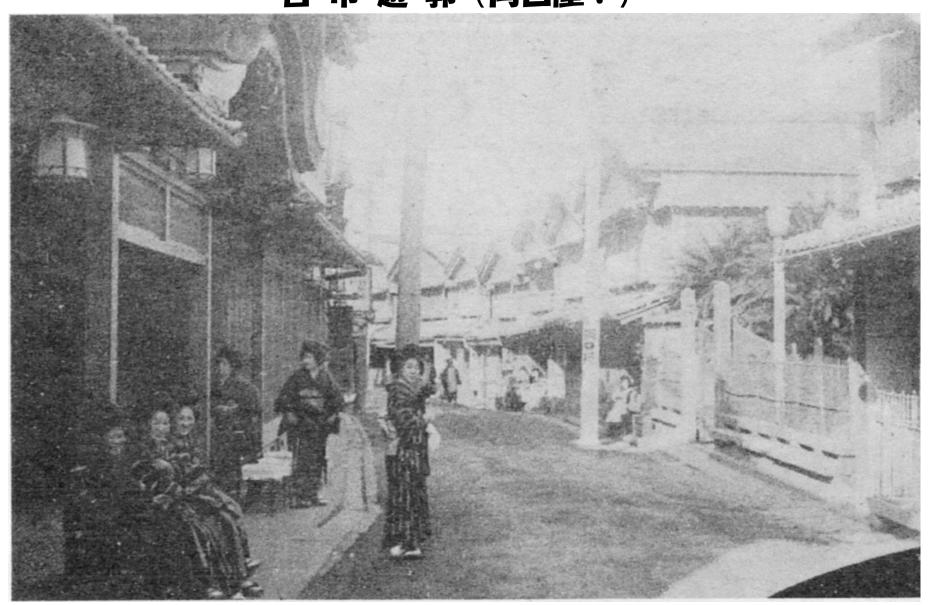
(ごんおせい) 屋本杉樓壽菊市古勢伊

古市町口の芝居横 両口屋 こと長 峯 館



昭和2年に焼失 → 再建された建物 → 再度焼失

古市遊郭(両口屋?)



倭町 角 屋 旅館兼すし屋 → 両 □ 屋 戦後、買い取られ両□屋と改称されたと言う 昭和45年旅館業廃業



両口屋 昭和初期

駐車場になってしまいました

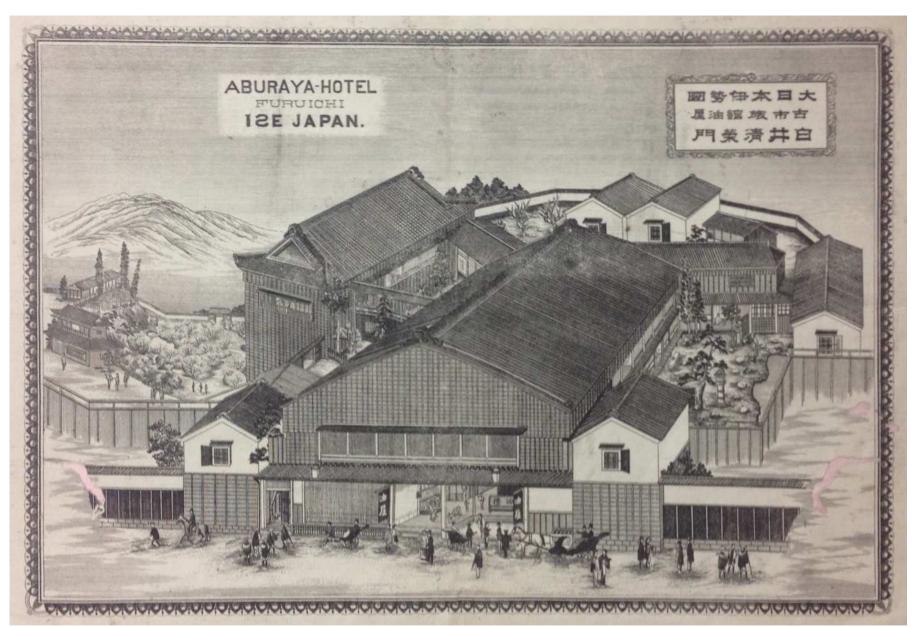
中之町 油 屋 明治22年旅館に転業し繁盛し、山田駅前に支店もあった いずれも戦災で焼失



旅館 油屋→現在は近鉄線の深い切通し 戦前の古市街道の様子 桂木屋旅館 交番と半鐘



昭和初期

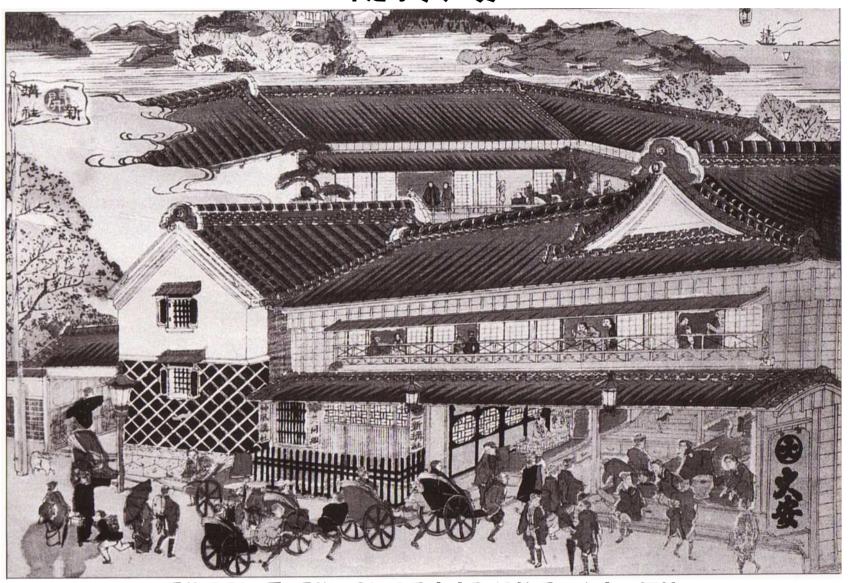


白井清栄門



下廊內店本量油館旅市古勢伊

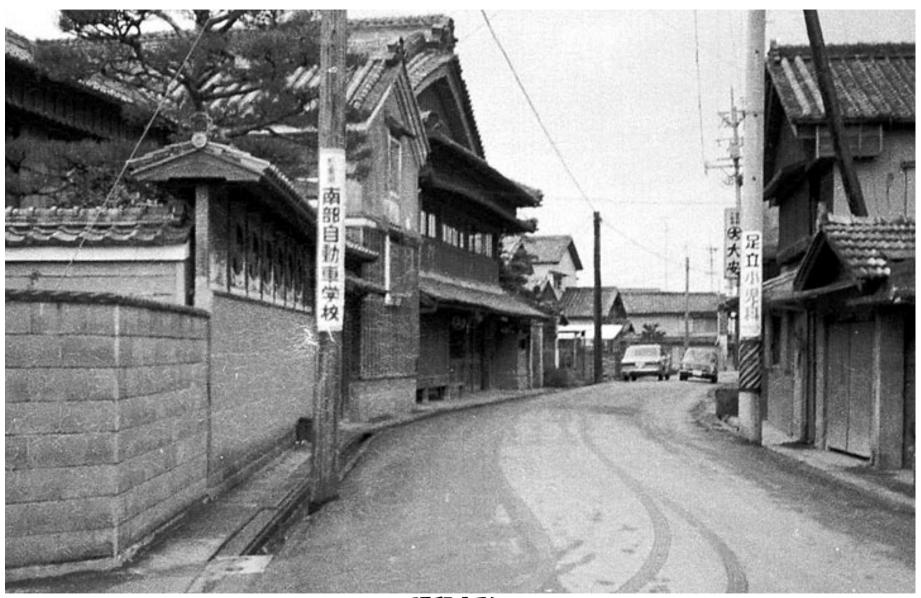
中之町 大 安



明治24年頃 明治38年2月中之町伊勢屋の火事で類焼

女将 井村かねの努力により再建されて大旅館となったが、昭和47、8年頃には殆ど休業状態



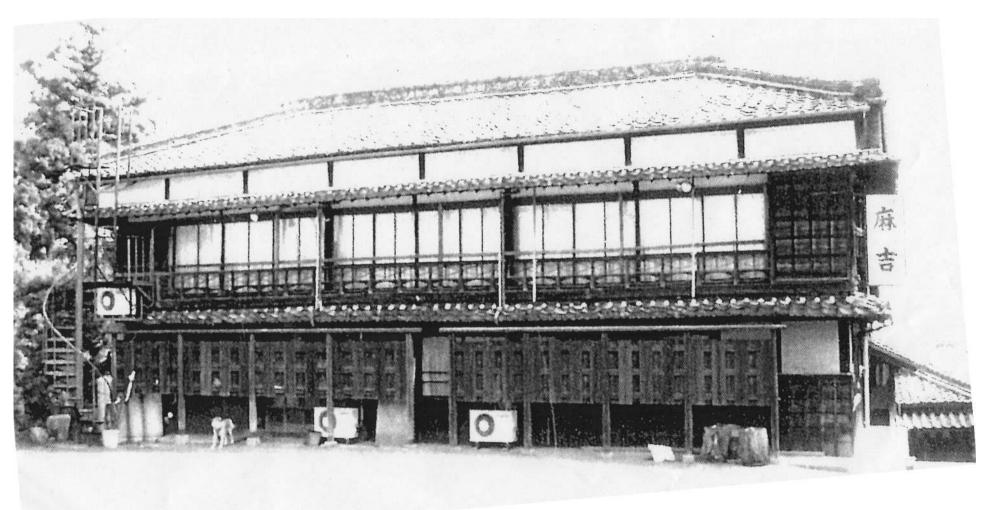


昭和47年

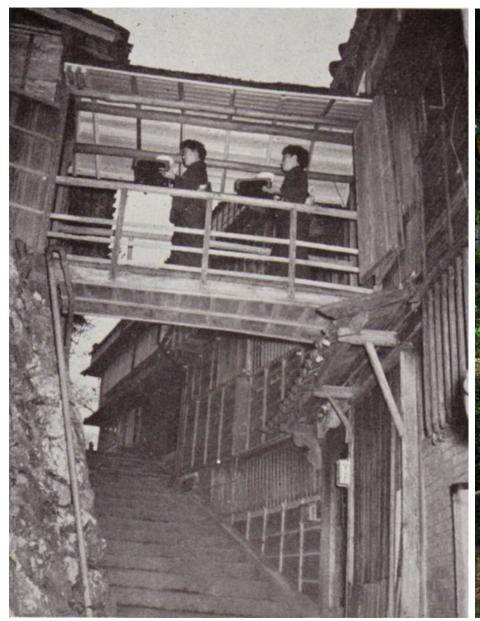
中之町 聚遠楼じゅえんろう・ 花月楼 ・ 天南第一楼 こと 料理旅館 麻 吉



「東海道膝栗毛」にも掲載された 芸者20人余りを抱えた料理店 → 旅館



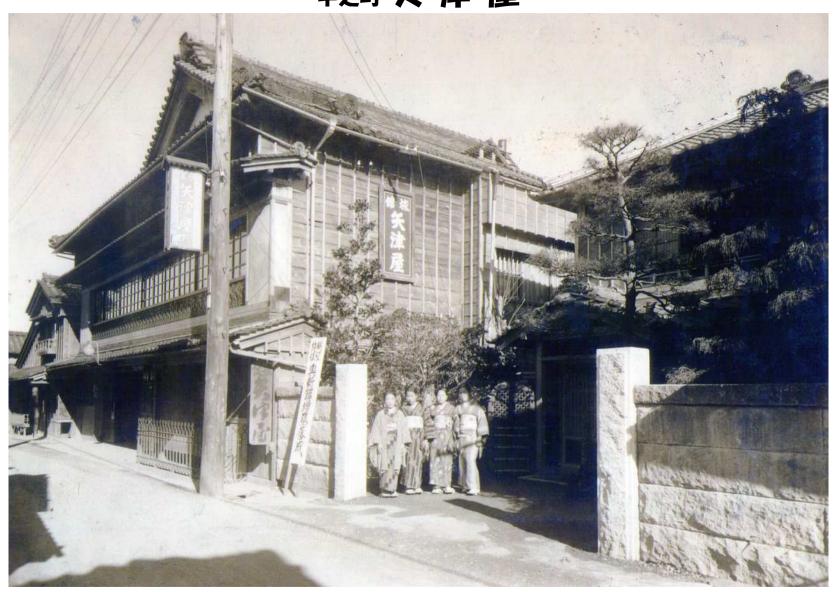
1838天保9年焼失した記録がある

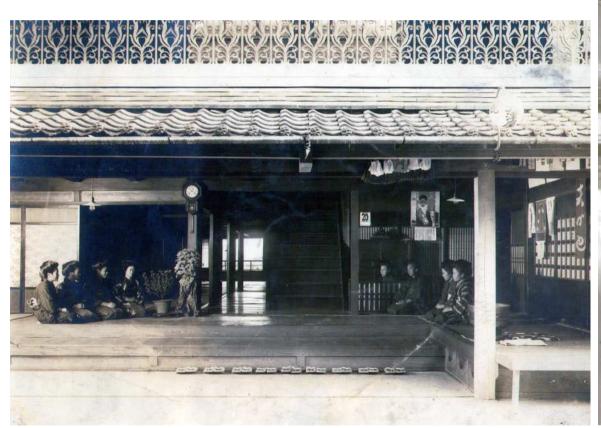




昭和37年 現 在

中之町 矢 津 屋







矢津屋店先 矢津屋売店と女将

<u>「第3回 古 市 周 辺」</u>

のさんぽはこの辺でお開きですご清聴、有難うございました。

次 回、第4回 河 崎 周 辺 は 12月24日(第4日曜)

そのあとは・・・・・

第5回 1月21日(第3日曜) 筋向橋から西側 周 辺第6回 2月18日(第3日曜) 宇 治 周 辺

よろしければ、また、ご参加ください

謝辞

伊勢郷土史研究家 飯 田 良 樹 ・山 田 修 司 (HP「いにしえの伊勢」) 両氏には写真の提供ならびにご指導をいただきました。

参考文献

昭和61年 ふるさとの想い出 写真集 明治大正昭和 伊勢 二見 小俣 (株)国書刊行会 平成4年 図説 伊勢・志摩歴史 < 下巻 > (株)郷土出版社 平成2年 目で見る 伊勢・志摩の100年 (株)郷土出版社 平成6年 北岡善之助 伊勢の博覧会男 (有)伊勢志摩編集室 伊勢度会人物誌、神都名家集、宇治山田市史、最新 伊勢市史 ほか